

新薬で人々のいのちと健康に貢献します。

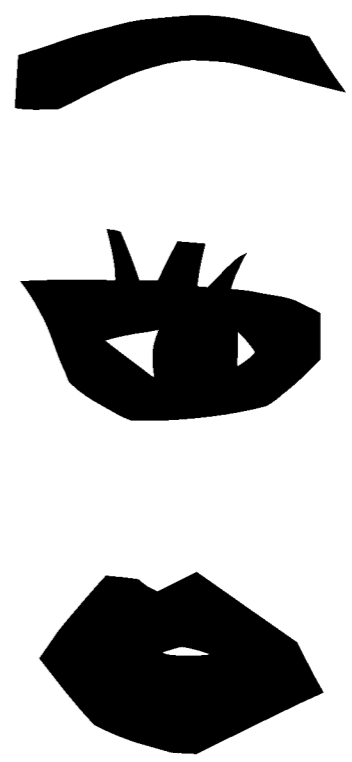
NOVARTIS

バルティス ファーマ株式会社
〒106-8618 東京都港区西麻布4丁目17番30号
http://www.novartis.co.jp/

富山化学 FUJIFILM FUJIFILMグループ

人間にとって医薬品とは、どうあるべきか。この根源的な問題に対し、わたしたちは常に「技術」で応えてきました。そして、今、最も力を注いでいるのが、抗菌剤や抗真菌剤さらには抗ウイルス剤などの抗感染領域をはじめ、アルツハイマー型認知症に有効な治療薬を中心とする中枢神経系領域やリウマチ性疾患を解決する抗炎症領域です。現在よりもより、将来は、さらに世の中で必要とされ、分野であり、新薬開発力や製造技術という、長年培ってきた富山化学のノウハウが期待されています。今、世界がわたしたちに注目しています。(いのちを「カガク」する。富山化学)

富山化学工業株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5 http://www.toyama-chemical.co.jp



技術と心意気。それを創薬に生かします。

Connecting with patients

UCBは、特異的な神経疾患、及び免疫疾患における効果的な治療を見つけるべく、情熱を持って常に弛みない努力を続けています。それは、重篤な病気のために身体的そして社会的負担を強いられている患者様とご家族を援助することへの挑戦に他なりません。患者様がもっと普通の日常生活を楽しむことのできる新たな治療法をもたらすことに努めます。

www.ucbjapan.com



The next generation biopharma leader

てんかんを持つ少年、ドミニク

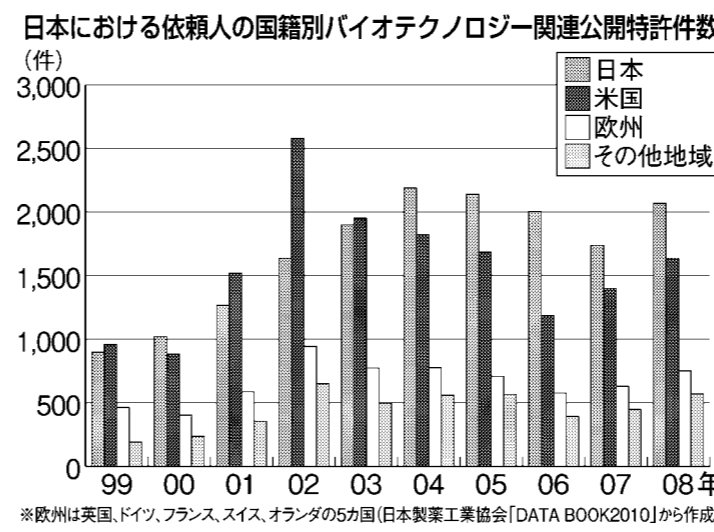
市場の活性化進む バイオ医薬品

医薬品業界では薬剤の効果が期待できる患者にのみ薬剤を投与する個別化医療への取り組みが着々と進む。患者を選別するため、薬剤開発と並行してバイオマーカーの開発も行われている。無用な投与を減らすことで、薬剤

費削減や、効果がないまま副作用に苦しむ患者を減らすことができる。いまや米国で販売承認される新薬の半分以上がバイオベンチャー企業が創製した物質となっており、国内製薬会社もライセンス契約を活発化している。

ライセンス契約・開発施設が増加

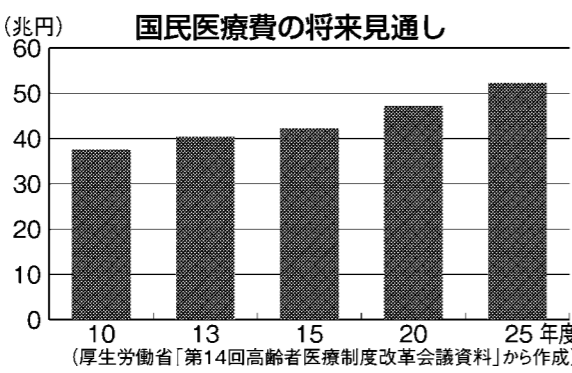
アステラス製薬は米アラビタ・ファーマシューティカルズと、アラビタの腎移植後の臓器機能障害(DGF)予防薬「ダイアナキシン」について、関連するすべての資産と権利の取得を目的とする独占的なライセンス契約を締結した。ダイアナキシンは内因性ヒトトランスフェリンタンパク質の遺伝子組換え血球や血小板。単核白血球や血小板のホスファチジルセリンへの結合を阻害することで、急性虚血性再かん流障害に伴う微小血管閉塞を抑制し、腎移植後のDGFを予防することが期待されている。アラビタは前期第2相臨床試験を完了している。エーザイと信州大学発のベンチャー企業、アナロファーマ・サイエンスはヒトの腸内細菌であるビフィズス菌の特性である偏性嫌気性菌、非病原性を創薬に生かした二つの契約を締結した。アナロファーマが開発中の、ビフィズス菌の特性を生かした新規抗がん剤「AP5001」に関するオプション契約と、ビフィズス菌を用いたデリバリー技術を活用し、新規抗がん剤開発の探索を共同で行う。またエーザイは次世代アルツハイマー型認知症治療薬として期待される新規モノクローナル抗体「BAN2401」の臨床第1相試験を、米国で患者を対象に開始。BAN2401はアルツハイマー型認知症を引き起こす因子の一つと考えられるアミロイド毒性凝集体である可溶性プロテインブリルに選択的に結合して無毒化し、脳内からこれを除去する世界初のモノクローナル抗体。同抗体による治療は、疾患の進行を停止させる可能性が期待されている。武田薬品工業は初めての抗体医薬専用製造・工業化研究施設を山口県光市にある工場に完成させた。高効率でコスト競争力のある抗体医薬の製造プロセス開発と治療薬の製造を目的としたホジキリンパ腫・未分化大細胞リンパ腫治療薬では、20年ぶりの新薬となる可能性のあるモノクローナル抗体と薬剤の複合体「SGN-35」の12年度承認取得を目指し、欧州で臨床第3相試験を実施中。また「AMG 386」は分子標的に結合するペプチドと抗体融合タンパク質の融合させた抗体。今年1月に再発卵巣がんを対象に国際共同試験に参加し、臨床第3相試験を開始した。中外製薬と大日本住友製薬は治療用がんペプチドワクチン「WT4869」について、骨髄異形成候群(MDS)を対象とした国内臨床第1/2相試験を実施。杉山治夫大塚大学大学院医学系研究科教授らの研究で、WT1タンパク質が白血病やほぼすべての種類の固形がんを高発現し、がん抗原になっていることが示唆されている。このWT1ペプチドを用いたがん免疫療法の有用性が検討されており、中外製薬と大日本住友製薬は共同研究により、新規ペプチドであるWT4869を創製した。WT4869はWT1タンパク質を誘導するがん細胞をWT1が傷害することで、WT1タンパク質を誘導するがん細胞をWT1が傷害することで、WT1



日本における依頼人の国籍別バイオテクノロジー関連公開特許件数(件)

認知度高まる 後発医薬品

後発医薬品の普及を妨げる原因の一つに、医療保険制度の問題がある。米国は民間医療保険が主流のため、後発医薬品が販売されていけば先発医薬品に対して保険適用されないケースが多く、必然的に患者側のコスト意識が確立する。これに対して、日本では国民皆保険制度が機能するため、患者のコストメリットは目立たない。しかし、運営負担に直結する健康保険組合では、後発医薬品の最大手の沢井



現在と将来、希望のジレンマ

改善策は「品質管理、営業活動、情報公開、安定供給で信頼を得る(しかも、近道はない)(同)ない」と、安定供給策として、沢井製薬は継続的に設備投資を実施。このほか千葉県茂原市に関東工場を増強を決定し、13年3月期までに10年同期比

まだまだ多い。日本では病院と薬局の医薬品業率が低く、病院内で薬を処方する比率は5割を超えているため、医師の意向が反映されやすい構造になっている。28億錠増となる年間80億錠の供給体制を敷く。品質面では含量成分の誤差幅を一般的な先発メーカより狭く設定するなど、生産コストや開発費をにらみながらの挑戦が続く。営業面では07年から波及効果の大きい採用実績を狙うため、大手病院専門の営業チームをつくり、攻略を強めている。さらに、将来への布石として、沢井製薬は10年12月にキリン製薬ホールディングス(HD)に対して経営統合を正式に提案し、業界の話題をさらした。「後発医薬品の普及ペースからみて今後5〜7年は事業成長の心配はないが、10〜20年後を考えると将来は欧米のように先発、後発を自社技術で手がけ、複数の軸で事業展開する必要があり(同)との狙い。市場成長の中、現在と将来の希望のジレンマに陥る沢井製薬。その姿は日本の後発医薬品業界の象徴ともいえる。



これまで、これからも、「患者思考」

患者さんのことを、自分のことのように考えると、見えてくるものがあります。いまだ満たされていない患者さんのニーズに応えるために何が出来るか。何を優先すべきか。私たちヤンセンファーマは、その最善の答えを導いていくため、これからも挑戦を続けていきます。

ヤンセンファーマは、CNS(中枢神経系)、真菌症、鎮痛・麻酔、がん領域のリーディングカンパニーを目指す。「ジョンソン・エンド・ジョンソン」グループの製薬会社です。

Janssen ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
URL: http://www.janssen.co.jp

人を見つめる。生きるものを見つめる。
何よりも、いのちを大切に思う存在でありたい、そう思うのです。
私たちは、バイオテクノロジーという分野で、医薬品の研究開発に取り組み、いのちを見つめてきました。だからこそ、抗体医薬をはじめとする世界が待ち望む新薬を他にはないスピードで届けられると信じています。
これからも、がん・腎・免疫疾患を中心とした領域で、世界中のかけがえのないのちにご貢献できる「グローバル・スペシャリティ・ファーマ」をめざして。
バイオの力で、薬の可能性を広げていく。
私たちは、「協和発酵キリン」です。
KYOWA KIRIN
協和発酵キリン株式会社
www.kyowa-kirin.co.jp